１年生学年だより

平成 27 (2015)年7月9日
第２１号
吹田市立第二中学校第一学年

「夏休み」みんなは大丈夫！？

もうすぐみんなが楽しみにしている夏休みがやってきます。

夏休みになると開放感や気の緩みから、生活のリズムも乱れがちになり、祭りなどで夜間に出かける機会も増え、様々な犯罪に巻き込まれる危険性も増えてきます。

今年の３月に新聞で掲載されていた次の記事（紙面の都合上、一部改変しています）を読んでみましょう。

グループ抜けたい　川崎・中１殺害　容疑１８歳から暴力続き

平成 27 年 2 月 20 日に川崎市川崎区の多摩川河川敷で同区の上村遼太君（13）が遺体で発見された。推定される犯行時間は未明。現場は夜間、人通りがほとんどない。有力な目撃情報がない中、不鮮明な防犯カメラの映像分析などをもとに、殺人容疑で逮捕されたのは、自称無職の少年（18）ら未成年の 3 人だった。

1 月 16 日に撮影されたプリントシールがある。笑顔の少年らの中で、上村君だけ顔を隠すようにフレームの外にはみ出している。最前列では、殺人容疑で逮捕された 3 人のうち、18 歳と 17 歳の計 2 人がピースサインをつくっていた。

上村君はこの時、頬が腫れ上がり、目の周りに大きなあざができていた。一緒に写っている川崎市川崎区の男性（20）は、この 2 日前、18 歳の少年に 10 分以上にわたって（上村君が）暴行を受けたのを見ている。理由はスマートフォンの無料通話アプリ「LINE」への反応の遅さ。そんな暴行を受けた後も上村君は、一緒に写真に納まる状態が続いていた。

少年らは、互いの地元の同区のゲームセンターなどで知り合い、アニメの話題で盛り上がるうちに親しくなった１０人前後の遊び仲間。上村君はこの男性（20）の紹介で加わり、昨年の 12 月に 18 歳の少年と初めて会った。この少年は、地元の中学から定時制高校に入ったが、数か月後には登校しなくなった。上村君は、最初のうちは慕っていた。

冬休み明けの１月８日以降、（中学校に）１日も登校しなかった一方少年らと一緒にいる姿が度々目撃された。だが、ほどなく上村君は「子分」のように使われるようになったと周囲の友人は言う。

１月中旬、あざを見て驚いた仲間の一人の中学 2 年男子生徒（14）に上村君は「（18 歳の少年に）酒に酔った勢いで、ぶっ飛ばされちゃった」と笑いながら語っていた。男子生徒は、「俺たちには明るく振る舞っていた。暴力もその１回だけだと思っていた。まさかこんなことになるなんて」と言葉を詰まらせた。

つらいことがあっても周囲には見せず、一人で抱え込む――。上村君に、そんな印象を持っていた友人、知人は少なくない。だが、あの日の暴行後、「（グループを）抜けたい」と漏らすようになった。

小学校時代の同級生には「（18 歳の少年に命令された）万引きを断ったら暴力を振るわれた」と打ち明けた。１月中旬以降、2 人は時々、LINE で連絡を取り合った。１月下旬には、同級生に「いい人そうで、優しそうだったから仲間に入ってしまったけど、殺されるかも。抜けたいと言ったら、暴力が増えた」とのメッセージが送られてきた。ただ、「大丈夫」の文字もあった。

同級生は 2 月中旬、グループが自転車を使う中、上村君は周りの顔色をうかがうようにしながら歩いていたのを目撃している。「表情は暗かったのに、笑っていた」という。これが上村君を見た最後になった。同級生はうなだれた。「何もできなくて申し訳ない気持ちでいっぱい」

「読売新聞」（2015/03/02）より

この事件のことをニュースなどで知っていた人も多いと思いますが、この事件だけが特別だったわけではありません。

同じような事件は日本でたくさん起きているのです。プリントの裏面に、今年の６月に報道された新聞の記事を紹介します。

集団暴行された１５歳、死因は水死　顔や胸を打撲　愛知

この事件では、県警が７日に中学３年（１４）と会社員（１５）、私立高校１年（１６）の少年３人を暴力行為等処罰法違反（集団暴行）の疑いで逮捕している。３人は、殴りつけた回数など暴行の程度についてそれぞれ食い違う供述をしているといい、遺体の状況をもとに供述の裏づけを進める。

県警によると、遺体は死後３～５日経過していると推定され、打撲の痕のほか、両手足には擦り傷もあった。切り傷や骨折、臓器の損傷はなかったという。

逮捕された少年３人は、６日午後１０時４０分ごろ、同市逢妻町３丁目の逢妻川の堤防上で、吉田さんの顔を素手で殴ったり、腹を蹴ったりするなど、集団で暴行を加えた疑いがある。

調べに対し、暴行時の状況について、１人の少年は「顔を数回殴った」と供述しているが、別の少年は「顔を１０回以上殴った」、「（相手が）襲いかかってきたからひざ蹴りした」とも話しており、食い違っているという。

また、少年らは「対岸まで泳いで戻ってきたら許してやると言った」と供述。県警は、吉田さんは暴行を受けた後、川に入って水死したとみている。現場付近には吉田さんのベルトや靴、スマートフォン、財布が残されていた。

県警は刈谷署に捜査本部を設置し、事件当時、近くにいた１５～１６歳の遊び仲間の少年少女６人からも事情を聴くなどして、捜査を進めている。逮捕された少年の一部には遺体が見つかったことが伝えられたが、取り乱すことはなく、淡々とした様子で取り調べに応じていたという。

■ＬＩＮＥで交友接点、学校把握できず

「外の悪い仲間と付き合い始めた」。中学時代の複数の同級生が吉田さんが中学３年ごろから、校外のグループと親しくなったのに気づいていた。だが、出身中学も高校も、学校の枠を超えて広がる交友関係を把握できていなかった。

刈谷市教委によると、逮捕された会社員（１５）や高校生（１６）は中学時代から学校を休みがちで、非行グループに属していることは把握していた。一方、中学も高校もほとんど無欠席の吉田さんについては「心配のない生徒」とみていた。事件前日の５日も普段通り通学しており、知立高校の小山真臣教頭は「信じられないとしか言えない」。

県警によると、吉田さんは６日夜、名古屋市内の祭りに行った後、事件現場となった川の堤防に向かった。その際、少年らは無料通信アプリ「ＬＩＮＥ」でやり取りしていたという。吉田さんの中学時代の恩師は「ＬＩＮＥを通じて他校の生徒と絡んでトラブルになると、守りきれない」と話す。刈谷市ではこうしたトラブル防止のため、昨年から、小中学生は「午後９時以降、スマホを親に預ける」という取り組みを始めていたが、功を奏さなかった。

「毎日新聞」（2015/06/11）より

この二つの事件は、尊い命が失われた最悪の事件です。事前に食い止めることはできなかったのか。この二つの事件のきっかけは何だったのか。他人事としてとらえるのではなく真剣に考えてみましょう。

保護者の皆様へ

子どもたちが安心安全に過ごすには、子どもたち自身が危険を察知し、そこから回避できることが何よりも大切です。

しかし、子どもたちを非行や犯罪から守るためには、彼らの意識や努力だけでは難しく、まわりの大人たちのサポートが必要です。今後も連携とご協力をよろしくお願い致します。